情報社会と情報

～暮らしの変化・情報社会の光と影～

2020年新型コロナウイルスによってインターネットが急速に普及。

対面授業

Zoom授業

デジタル化された情報

スマホやコンピュータなどを使ってやり取りする文字や、
音声、静止画、動画などの情報はデジタル化されている。

例えば…

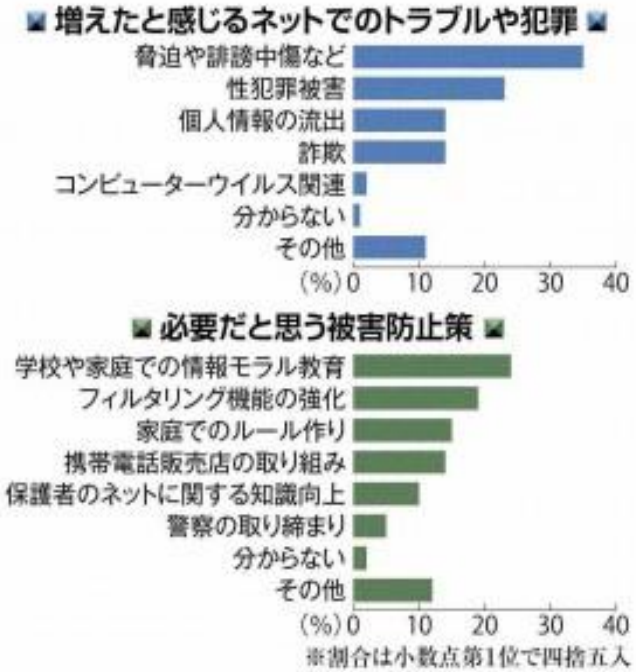
写真を撮る

SNSに発信

一方で…

個人情報を特定できる情報やプライバシーに関わる情報など、広めてはいけない情報がコピーされ、多くに人の手に渡り悪用される可能性もある

実際のニュース



ネットで被害 高まる危機感

子どもを守ろう

道警が初の意識調査

犯罪、トラブル「増えた」74% 保護者、若年層で顕著

道警が18歳未満の子どものインターネット利用について、20歳以上の道民を対象に初の意識調査を行ったところ、ネットをきっかけに犯罪やトラブルに巻き込まれる子どもが増えたと感じている人は、74%に上った。実際に会員制交流サイト（SNS）などを通じて被害に遭う子どもは増加しており、現状に対する道民の危機感の高まりが浮き彫りになった。

2013年から年1回実施している事件・事故に関する道民意識調査の中で、初めて項目として設けた。7～8月に道内の運転免許試験場で、免許更新に訪れた1265人にアンケート用紙を渡し、その場で記入してもらった。

内訳は、「感じる」が41%、「どちらかといえば感じる」が33%。二つを合わせた割合を年代別にみると、40代が79%と最も高く、20代が78%、30代が72%、50代が71%と続いた。

増えたと感じるトラブルの内容は、ネット上の脅迫や誹謗中傷などが最多の35%、次いで援助交際や児童ポルノなどの性犯罪被害が23%。必要だと思う被害防止策は、学校や家庭での情報モラル教育が24%、有害サイトへの接続を制限するフィルタリング機能の強化が19%だった。

道警少年課は「スマートフォンを持ち始める年齢の子どもがいる保護者世代や、ネットの利用が特に身近な若年層で危機意識が強い」と分析する。

道警によると、今年上半期（1～6月）にSNSなどコミュニティーサイトを通じて性犯罪被害に遭った子どもは、前年同期比20人増の50人と、07年の統計開始以来最多ペース。うち半数は高校生だが、中学生が19人、小学生も2人いた。被害の低年齢化が進み、道警は警戒を強める。

SNSを介した援助交際も増加傾向にあり、道警は摘発や、ネット上で相手を募集する書き込みなどを探す「サイバー補導」を強化。6月から小中学校を対象に、校内放送でスマホを使う際の注意点などを指導する取り組みも始めた。

道警少年課は家庭での対策として、子どものスマホはフィルタリング機能を必ず利用することや、スマホを使う場所や時間帯などのルール作りを挙げ、「ネットを通じて見知らぬ人と連絡を取らないよう子どもに伝えてほしい」と話している。

7:45 LIVE 千葉 40/50%

木村花さんを苦しめた
ネットの誹謗中傷は“減災”できるのか

令和メディア研究所主宰／白鷗大学特任教授 下村健一 × 論客 徹底討論

SNSで自分をさらす人に知ってもらいたい事

OPINION

- 「100人に1人しか怒らせない」程度に、**すごく配慮した言葉**でさえ、100万フォロワーいたら1万人が怒る。怒れる1万人が**1ダメージの石を投げるだけ**で、9999ダメージのオーバーキルが発生する。

「note」CXO・深津 貴之さん／今月12日

- “有名人”でなくても…反応は、**向き**も**量**もあなたの想定を超えて来ることがある

他人が創作した文章や音楽、画像・映像を無断でコピーや配布したことが、違法行為に問われることがある

日常的にデジタル化された情報を扱う

- 著作物や自分および他人に関する情報などの扱いに常に気を配る必要があります